

1. はじめに

株式会社スタートライン（以下「SL」という。）では、障害者のための雇用支援サポートや就労移行支援サービスで活用できるスタートライン・サポート・システム（Startline Support System：以下「SSS」という。）を開発し、当社が運営するサテライトオフィスや就労移行支援事業所で利用してきた。SSSは職業リハビリテーションや職場定着支援を効果的に実施することを目的に、健康管理チェック、アクセプタンス&コミットメント・セラピー（以下「ACT」という。）等の実践に活用できるツールである。SLはSSSの機能を土台にして、より拡張性が高く、セキュリティレベルが高い、新たな障害者雇用支援システムEnable360（いねいぶるさんろくまる）を開発した。本発表ではEnable360の概要と機能について報告する。

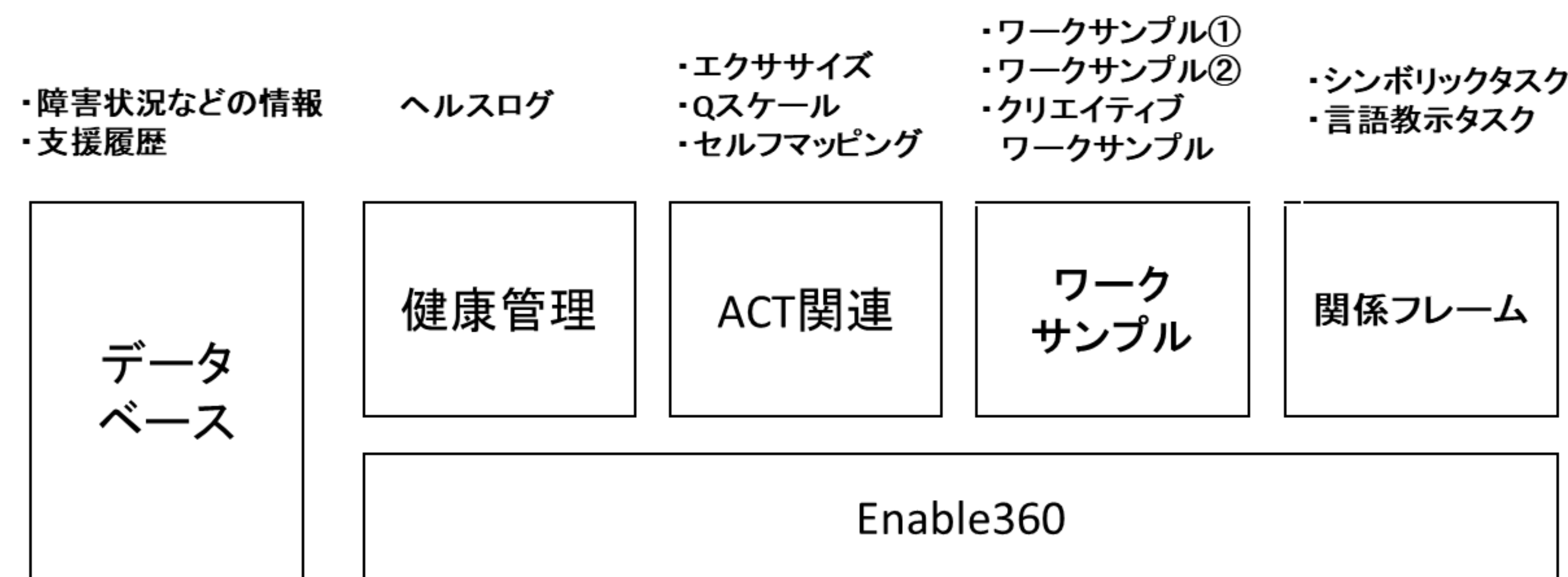
2. Enable360について

【名前の由来】

「～を可能にさせる、～できるようにする」という意味の英語動詞「enable」と、利用者が使える様々なモジュールと支援してくれる様々な人が「まわりにある・いる」という意味、利用者がその中心であるという意味を込めて「360」を合わせた造語である。利用者目線という、自分のまわりにはたくさんのプログラムや応援してくれる人がいて自分の可能性を広げることができ、新しい自分へと変化することができる。支援者目線という、様々な角度から利用者へのアプローチを実現し、適切な支援を可能にするという意味を込めている。

【システム全体像】

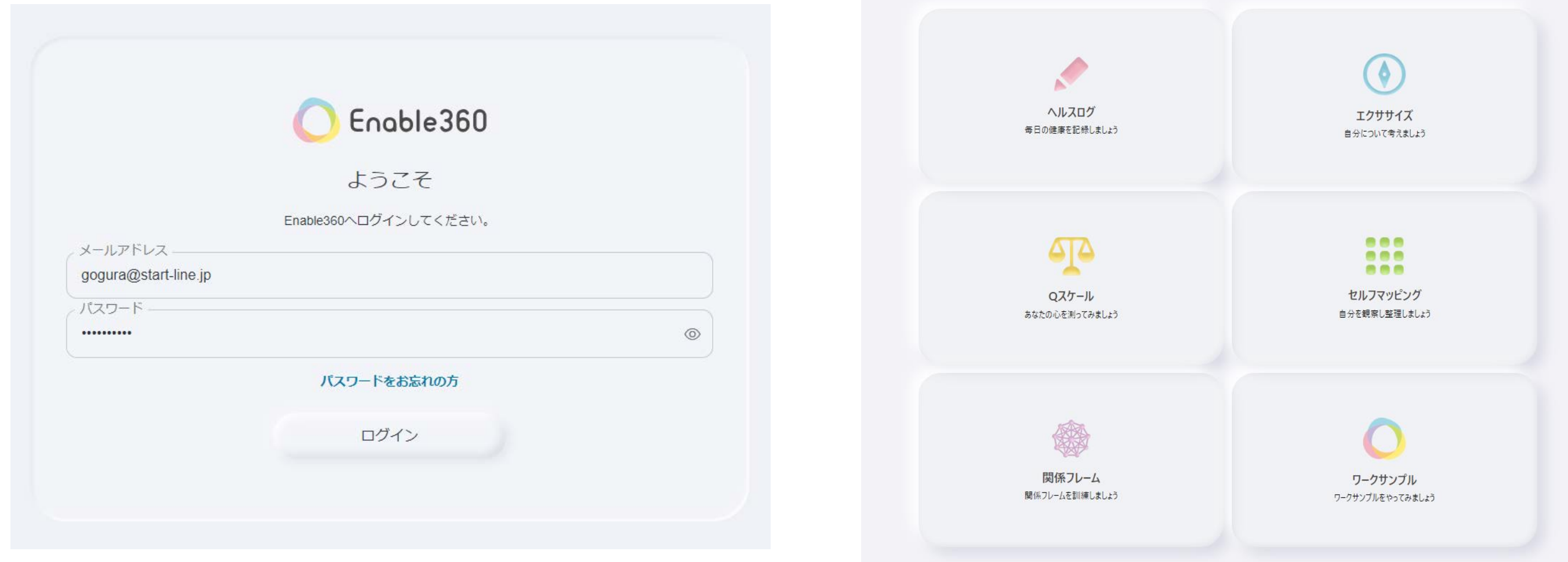
Enable360は様々なコンテンツを実行できるWeb上のシステムである。Enable360は固定されたシステムではなく、web上の器のようなものである。2023年8月時点で、4種類のコンテンツが利用可能であり、開発中のコンテンツを含めると10種類のシステムが利用可能となる。



Enable360のシステム概念図

【主要システム概要】

エンドユーザーは、個別に付与されたIDとパスワードを入力することにより、システムが利用できる。実行した結果は自身で参照することができるだけでなく、支援者にメールで連絡を行ったり、データを共有したりすることも可能である。



Enable360ログイン画面（左）システムメニュー選択画面（右）

3. Enable360のコンテンツ

a) ヘルスログ（稼働中）



- 日々の生活状況を記録・報告できるシステム。
- 睡眠・食事・排泄・入浴・服薬等の職業生活の基礎となる日常生活の状況や、就労中のコミュニケーション頻度・疲労度・気分・頓服などを日々記録・報告し、必要に応じて相談の依頼などを行うことができる。

b) エクササイズ（稼働中）



- ACTをweb上で学び、実施できるシステムである。エクササイズ数は110個。
- エンドユーザーが文章・音声・動画によるACTエクササイズを実行することができる。
- エクササイズ実施前後の私的出来事やエクササイズの結果を記録することができる。

c) Qスケール（稼働中）

No.	質問	とてもない	ややない	ややある	とてもある
1	自分の苦しい経験や記憶は、私が大事にしている生活を送ることを困難にする。				
2	自分の感情に恐れを感じる。				
3	自分の悩みや感情をコントロールできないことについて心配する。				
4	自分の苦しい経験は、充実した生活を送ることに妨げとなる。				
5	感情は私の人生に打撃を与える原因となる。				
6	多くの人は自分よりも多く人と付き合っているようである。				
7	心配することは私の成功の妨げとなる。				

- 抑うつ症状の有無とその程度の指標を計るベック抑うつ質問紙やACTに関連する尺度を測る7種類の質問紙をオンライン上で実行することができる。
- 結果は記録されるので、初期のアセスメントや介入効果の確認などに有効である。

d) セルフマッピング（稼働中）



- 自身の行動を振り返り記録することができる。
- 行動はACTの概念に沿って、日常の行動、体験の回避の行動、価値に向かう行動に大別される。
- 自身の行動の変化に気づき、支援者からの強化により、価値に向かう行動を増やすために有効なシステムである。

e) 関係フレーム（一部、試行準備中）



- 関係フレーム理論をベースにした、言語と認知に関するアセスメントとトレーニングのためのシステムである。
- 関係フレームのシステムについては、言語能力に応じて、シンボリックタスクと言語教示タスクから構成されている。

4. Enable360の活用状況

Enable360の開発済コンテンツは、種々の場面で既に活用されている。以下に、主な活用場面と活用状況について示す。

利用先	概要	利用施設数/利用者数
当社が運営するサテライトオフィス利用企業	定着支援を目的として、Enable360のヘルスログを活用して、日常生活状況や体調の変化をタイムリーに確認することができる。心の問題に対するアプローチとしてACTエクササイズを実施することにより、心理的柔軟性が向上し、安定就労に寄与している。	約600人
就労移行支援事業所	利用者の方がヘルスログやACTエクササイズを活用し、体調面のセルフマネジメントスキル向上に寄与している。	3事業所/ 約60人
精神科病院	精神科病院に通院する患者に対して、治療の文脈でACTエクササイズの活用が始まっている。医師の指示のもと、患者の受診時にACTエクササイズを実施している。患者の心理的柔軟性の向上に寄与している事例がある。	2施設

5. 今後の展望

Enable360のヘルスログやACTエクササイズのシステムは、職場定着支援や就労移行支援事業所において活用され有効性が示されている。現状のシステムの対象ユーザーは、主に就労中または就労準備中の障害者である。一方、前述の3項で述べた、言語と認知に関する関係フレーム理論に基づいたシンボリックタスクのトレーニングシステムは、学習の基盤となる関係フレームスキルの向上を目指したものであり、障害がある児童・生徒が主な対象となっている。学習の基礎ができた段階で、次の言語教示タスクのトレーニングを行うことにより、より高次の関係フレームスキルの獲得が可能となる。更に、業務を模したワークサンプルを用意することにより、児童から成人まで連続した認知機能および職業能力の向上が期待できる。また、活用領域も、従来の職業リハビリテーションの領域のみならず、医療機関、教育機関などに広げていきたいと考えている。